

## 「福島第一原子力発電所・事故の収束に向けた道筋」の進捗状況について

4 月 17 日に公表した「福島第一原子力発電所・事故の収束に向けた道筋」から1ヶ月が経過した進捗は以下のとおり。

### 1. 基本的考え方(変更なし)

原子炉および使用済燃料プールの安定的冷却状態を確立し、放射性物質の放出を抑制することで、避難されている方々のご帰宅の実現および国民の皆さまが安心して生活いただけるよう全力で取り組む

### 2. 目標(変更なし)

- 基本的考え方を踏まえ、前回に目標として設定した2つのステップに変更なし。  
ステップ1: 放射線量が着実に減少傾向となっている  
ステップ2: 放射性物質の放出が管理され、放射線量が大幅に抑えられている  
(注) ステップ2以降は「中期的課題」として整理
- 目標達成時期については、引き続き様々な不確定要素やリスクがあるが、前回に設定した以下の目安に変更なし。  
ステップ1: 7月中旬を目途  
ステップ2: 3~6ヶ月程度(ステップ1終了後)

### 3. 1ヶ月の総括と今後の取組み(主な変更点) 別添『当面の取組(課題/目標/主な対策)のロードマップ』ご参照

#### ① 分野と課題の追加

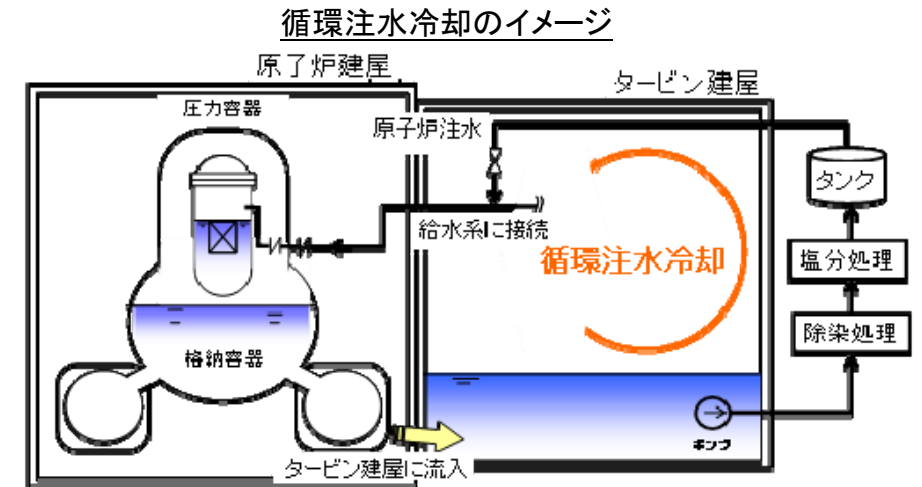
- ・ 前回公表時には、3つの分野(「冷却」、「抑制」、「除染・モニタリング」)と5つの課題(「原子炉」、「燃料プール」、「滞留水」、「大気・土壌」、「測定・低減・公表」)を設定。
- ・ この1ヶ月での取組みを反映し、2つの分野(「余震対策等」と「環境改善」)と3つの課題(「地下水」、「津波・補強・他」、「生活・職場環境」)を追加し、5つの分野と8つの課題に再整理。
- ・ これに伴い、課題への対策数は76(前回63)に増加。

#### ② 「課題(1)原子炉」: 冷却水の漏洩による優先対策の見直し

- ・ 作業環境を整備後、1号機の原子炉建屋に入り、計装類(原子炉水位等)の校正及び建屋内状況を確認。
- ・ その結果、2号機に加えて、1号機でも格納容器から冷却水の漏洩が判明。3号機でも同様のリスクあり。
- ・ このため、ステップ2での「冷温停止状態」に向けた主対策として、建屋等に滞留する汚染水(滞留水)を処理して原子炉注水のために再利用する「循環注水冷却(右上図)」の確立を、冠水作業(燃料域上部まで格納容器を水で満たすこと)に先んじて実施するよう見直し。

#### ③ 「課題(2)燃料プール」: 対策を前倒し

- ・ 比較的順調に作業が進展。  
1・3・4号機燃料プールの注水等に利用してきた「“キリン”等の遠隔操作化」を前倒しで実施。ステップ2で予定していた燃料プールの熱交換器設置もステップ1での実施が可能な見込み。



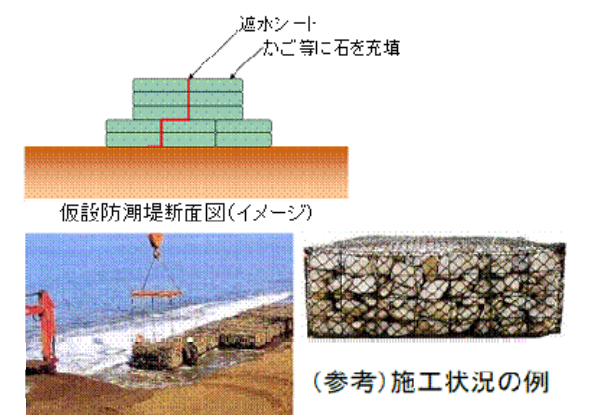
#### ④ 「課題(3)滞留水」: 処理施設の運転開始までは増加

- ・ 1号機の原子炉建屋内で新たに見つかるなど、滞留水は増加傾向。保管場所の追加で対応しているが、処理施設の運転開始と「循環注水冷却」の早期確立による滞留水の抑制が重要。
- ・ 同時に海洋汚染拡大防止に向けた対策を強化。
- ・ また、新たに地下水の汚染拡大の防止を課題として抽出。「サブドレン保管管理」および「地下水の遮へい工法」の検討などの諸対策を追加。

#### ⑤ 「課題(7)余震・津波」: 対策を強化

- ・ 予断を許さない余震や津波についても課題として再設定。
- ・ これまでに実施した「電源の多重化」、「非常用電源等の高台への移設」、「原子炉への注水ラインの多重化」に加え、「仮設防潮堤の設置」についても道筋での対策として明記。
- ・ また、4号機の燃料プールに加え、各号機での補強工事も検討に着手。

#### 仮設防潮堤のイメージ



#### ⑥ 「課題(8)生活・職場環境」: 一歩ずつ改善へ

- ・ 夏場に向けた作業員の環境改善に着手したことを踏まえ、分野・課題として追加。
- ・ これまでに実施してきた「食事の改善」や「休憩施設の設置」に加えた必要な追加策を進める。